

## 平成 30 年度第 2 回物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 31 年 2 月 5 日（火） 13：30～15：30

場所：香美農林合同庁舎 1 階 大会議室

出席：委員 18 名中、13 名が出席

議事：(1) 地域アクションプランについて

- 1) 物部川地域アクションプランの進捗状況等について
- 2) 平成 31 年度物部川地域アクションプラン（案）について

(2) 産業成長戦略について

- 1) 第 3 期産業振興計画 ver. 4 の改定のポイント（案）について
- 2) 移住促進分野の取り組みについて
- 3) 「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」について

(3) 地域未来投資法に基づく物部川地域計画について

議事 (1) (2) (3) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 地域アクションプランについて

(No.20 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化)

(寺村委員)

ふらっと中町には、チャレンジショップと地域コミュニティの部分の 2 つの機能があり、この資料の中に書かれていないが地域コミュニティの部分の活動も活発にされ、また学校の総合的な学習の時間の活動拠点にもなっている。

(No.10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組)

(白山委員)

私も、子どもたちの思いを伝えておきたい。十菜シャモを観光の起爆剤にしたいという子どもたちの言葉を聞き、何とか協力したいと思っていたところ、子どもたちから出てきたランチメニューの案の中から 3 点商品化し、レストラングドラックで 5 月末まで販売している。

(杉村委員)

ごめんシャモのブランド化に向け頑張っているところだが、数字的には非常に厳しい状況。現在 3,000 羽そここの生産であり、どうしても生産部門、処理部門、販売部門では赤字の状態。唯一、ひろめ市場に出店させていただいている軍鶏伝は好評で全体としてトントンでやっている。いかにシャモ肉をもっと浸透させていくか考えている中、グドラックさんと十市小学校と一緒にメニューを考えていただき本当にありがたい。何とか来年度は黒字になるように頑張っていく。

## (No.2 南国市の園芸基幹品目シントウの振興)

(山本委員)

シントウの生産量は毎年度書かれているが、売上も書いた方が良い。それからシントウを使った加工製品、例えばシントウをおかきのようにし、全国へ発信するといったことができれば良い。

(小松中央東農業振興センター所長)

販売額は平成 25 年度が 9 億 7,000 万円、平成 29 年度が約 10 億 7,000 万円である。

## (No.1 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」)

(森田委員)

ニラのそぐり機等がパワーアップ事業を通じてたくさん入ってきている。担い手も入ってきているが、高齢化等で減少する方が多いため、担い手をもう少し早く確保していただきたいと思う。香南市では、農業公社に研修センターを設置し、担い手を増やしていこうという取り組みもしてくれているので、徐々には増えてくるかと思うが、もう少し増やしていかないと、産地として維持していけるか JA としても心配。自分達でも研修センターを確保していきたいという考えは持っているの、県市の協力をいただきたい。

## (2) 産業成長戦略について

(近藤委員)

移住促進と起業支援を合わせて行うことは大事だと感じている。昔はもっと起業の問い合わせがあったと思うが、実際に移住の相談会等では、どちらかと言えば安定した暮らしを求めている方が多い状況。ターゲットを意識して、それに合わせた取り組みをしていくことがすごく大事になってくる。それに関連して、先日セミナーの講師が「課題を出す人とアイデアを出す人とプレーヤーは、それぞれがっちり分けた方が良い」という話をされていた。なかなか自分ではやれないから意見は出せないということが現場ではよくある話。アイデアを出せる人がアイデアを出して、そのアイデアと課題を見て、今度それをやってみたいという人をつないでいけたらと考えている。

もう一点、移住して来る人はどちらかというとな経済的な豊かさよりも心の豊かさ・満足度を求めて都会から田舎へ移住してくるという感覚。そういう人たちを見ると、組織というよりは個人レベルで、自分が暮らせる範囲の生業をつくりたいという方も、これから増えてくるのではないかと思う。それが県の政策として推進するには規模が小さいことや対応する側の人数も少ないという課題が出てくるかもしれないので、そこを調整すれば、移住した人も県の取り組みに関わりやすくなるのではないか。

(白山委員)

近年の龍河洞が非常に素晴らしい。入り口はまだ寂れた感じだが、中へ一歩入ると、若い人の気を引くような洞窟があって、クレープ屋のようなおしゃれなお店があって、イルミネーション等も幻想的で素敵なので、ぜひ龍河洞の開発にもっと力を入れていただきたい。龍河洞は高知県の財産であり、地域の財産なので、もっとスピードアップして観光に力を入れてもらいたい。

(前田地域産業振興監)

龍河洞は「1回行ったらもういい」と良く言われるが、四季折々のいろんな魅力が龍河洞あるので、趣向を変えながら色々なイベントもやっていきたい。今年からの自然&体験キャンペーンと併せて、大々的にPRしていきたい。また、来場者の78%が県外からとなっており、県内からさらに龍河洞に来てもらうためのプロモーション活動を実施したい。

(杉村委員)

高知新港に入ってくる大型客船の観光客を、この物部川流域で観光してもらうような計画はあるか。

(前田地域産業振興監)

「れんけいこうち」の枠組みの中で、高知市と周辺地域を組み合わせたツアーのルートを検討中である。

(山本委員)

小学生や中学生が、高知県にこれだけの宝があるのに、それを全然知らず、知らないまま大人になって、どんどんどん県外へ出て行く。例えば、せめて県内の小学生は皆、一度は龍河洞へ修学旅行に行き、自分の郷土の財産を知るという教育をしていく事が大事ではないか。

(前田地域産業振興監)

今、教育委員会にも研修会や遠足で使ってもらえないか投げかけをしている。

(3) 地域未来投資法に基づく物部川地域計画について

意見交換等、特になし。

(以上)